

国立国会図書館における文化・広報活動

国立国会図書館 利用者サービス部 人文課長
中渡 明弘
国際子ども図書館 主任司書
本多 真紀子

はじめに

国立国会図書館は、東京本館、関西館、国際子ども図書館の三つの施設が一体となり、国会の図書館・調査機関、また、わが国唯一の国立図書館として、国会、行政・司法各部門及び国民に対して様々なサービスを提供しています。

2012 年策定の「私たちの使命・目標 2012-2016」¹では、第 4 の目標「協力・連携」として、「国内外の関係機関と協力・連携することにより、知識・文化の基盤を一層豊かにし、人々の役に立つものにする」ことを掲げています。この目標を実現するための戦略的目標の一つは「本や図書館の魅力を伝える活動の促進」であり、「イベント、展示会、電子展示会及び刊行物の充実を図り、所蔵資料と当館の活動を広く紹介し、また、本に親しむ環境を整備して子どもの読書活動を推進する」ことです。この戦略的目標を達成するため、文化活動及び広報活動の充実に努めています。

1. 文化活動

(1) 展示会

1948 年の開館以来、国立国会図書館法第 21 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、当館が収集し所蔵する図書館資料の展示会を、国民に対する奉仕の一つとして開催してきました。特に、資料の殆どを閉架書庫に収蔵している当館では、展示会は当館所蔵の資料やコレクションを紹介する重要な場です。

展示会は大きく分けて 3 種類あり、①原資料を用いて特定テーマの下に、専用の展示会場で開催する大規模企画展示、②特色ある資料をユニークな切り口で紹介する小規模展示（小展示）、③電子展示会です。

¹ 当館の果たすべき使命を再確認して、その使命の下でおおむね 5 年間に亘って取り組む 6 つの目標を掲げました（目標 1：「国会の活動の補佐」、目標 2：「収集・保存」、目標 3：「情報アクセス」、目標 4：「協力・連携」、目標 5：「東日本大震災アーカイブ」、目標 6：「運営管理」）。また、翌 2013 年には「使命・目標」の 6 つの目標を実現するための中期的目標として、各々「戦略的目標」を策定しました。

① 大規模企画展示

当館所蔵資料を中心に、数百点の資料の陳列を行う展示会です。1948年の開館以来、東京本館では、ほぼ年に1回、秋季に開催し、これまでに約70回の展示会を開催しています。また、関西館では2002年の開館以来、東京本館の企画展示を巡回で開催するほか、独自の展示会を開催しています。国際子ども図書館では2000年の開館以来、児童書を様々な観点から紹介する展示会を年に数回、これまでに約50回の展示会を開催しています。

企画展示は、その態様から、①当館が所蔵する資料の中から特定のテーマで紹介するもの（「名勝負!!展」（2013年）等）、②当館の記念行事と連携するもの（「国立国会図書館開館60周年記念貴重書展」（2008年）等）、③他機関との共催で行うもの（「世界のバリアフリー絵本展2013」（2014年、日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催）等）の3つに大別されます。近年、いずれの展示会でも出展リストを作成し、会場で配布するほか、当館ホームページ上でも公開しています。

② 小展示

展示ケース（2~3台）や資料室の書架を使用し、10~30点程度の資料を紹介する展示会です。時宣を得たテーマでタイムリーに実施できる点が大きな特徴です。

東京本館では、1981年から目録ホールの一部を使用して始められ、2008年までに155回開催しました（2009年からミニ電子展示「本の万華鏡」へ移行）。関西館では、2009年から総合閲覧室において開催し、現在まで16回を数えます。国際子ども図書館では、2000年の開館以来、各資料室において書架の一部を使用し、季節に合わせたテーマ設定の展示や開催中の企画展示と連動させた展示等、年10回ほど開催しています。

③ 電子展示会

当館の蔵書を中心とする様々な資料を、特定のテーマごとに集め、画像あるいはテキストの形で電子化し、解説やコラム、各種索引を付した、ホームページ上の展示会です。1998年策定の電子図書館構想では、利用者にとって興味のある分野について適切に資料と情報を編集し、魅力のあるコレクションを形成することを目指して電子展示会を作成することを謳っています。第1回電子展示会は、同年に当館開館50周年を記念して行った企画展示「国立国会図書館開館50周年記念貴重書展」を再現した「デジタル貴重書展」です。

これを皮切りに、電子展示ならではの機能（資料の検索、関連事項とのリンク、他言語表示等）を持たせ、画面レイアウトに工夫を加えながら、現在までに16本の電子展示会を公開しています。最新の展示会は、2014年3月に公開した「錦絵で楽しむ江戸の名所」です。現代の地図や当時の切絵図、絵師、季節のキーワードなど様々な視点から名所錦絵を探ることができます。

また、国際子ども図書館ホームページでは、同館が作成した 6 本の電子展示会を公開しています。最新の展示会は、2014 年 7 月に公開した「中高生のための幕末・明治の日本歴史事典」です。中高生が当館所蔵の史料をもとに歴史を学び、楽しめるよう工夫しました。

最近では、諸外国の国立図書館との協定に基づく活動の一環として電子展示会を開催しています。2009 年、オランダ王立図書館との協定（2005 年）のもと、「江戸時代の日蘭交流」を公開しました。本年、フランス国立図書館との協力協定（2013 年）により、「近代日本とフランスー憧れ、出会い、交流」（仮称）を公開する予定です²。

電子展示会は、来館せずともどこからでも当館の資料が見られること、現物展示では見られない、他のページの画像をめぐって見ることができること、展示会内の相互に関連するページや当館の他の電子図書館サービス（近代デジタルライブラリー、デジタルコレクション等）とのリンクを活用できることなどで有益である一方、新しい年代の資料を用いる際には、著作権の関係からどうしても掲載できる資料に制約が生じるという課題があります。

（2）イベントの開催

東京本館、関西館、国際子ども図書館において、講演会、シンポジウム、フォーラム、セミナー、研修などのイベントを開催しています。

東京本館では、図書館評価、書誌データ作成・提供、電子情報、日本研究支援、「東日本大震災アーカイブ」等についての講演会や外国人講師を招へいしての国際シンポジウム、国会の立法調査活動としての政策セミナー、図書館資料の保存フォーラムなどを開催しています。

関西館では、開館 10 周年記念講演会、展示会（小展示）関連イベントとしての講演会、電子図書館サービス推進のための国際シンポジウムなどを開催しています³。

また、当館データベースの啓蒙と利用促進のための「国立国会図書館データベースフォーラム」は、東京本館と関西館の両館において毎年開催しています。

国際子ども図書館では、開催中の展示会のテーマにあわせて講演会を開催しているほか、児童書や児童文学の知識涵養、読書活動推進のため、著名な作家による「私が子ども時代に出会った本」、「今、世界の子どもの本は」シリーズなどの講演会を開催しています。また、全国の図書館の児童サービス担当者を主な対象とする研修・交流事業として、「子ども読書連携フォーラム」、専門家による講義を中心とする「児童文学連続講座」などを実施しています。子ども向けの行事では、毎週末のよみきかせのほか、科学あそび、図書館の仕事紹介、わらべうたの会、近隣機関との共催による音楽会、動物の本のよみきかせと動物園飼育員さんのお話を組み合わせたコラボレーション企画などを実施しています。

² また、共同電子展示会の公開を記念して、フランス国立図書館から共同電子展示会担当司書を招聘し、日仏両国の文化交流に関する国際シンポジウムを開催します。

³ 東京本館・関西館が主催するイベントの多くをそれぞれ互いに同時中継しています。これにより、東京本館と関西館一体となったの情報発信を行っています。

2. 広報活動

近年、電子情報通信技術の進展により、情報通信ネットワークを介した広報を取り入れるなど、多彩な方法による広報活動を行っています。

(1) 館刊行物

館の活動や各種サービスを総合的に紹介した『国立国会図書館月報』、国政審議上の重要課題について論点等をまとめた『調査と情報—Issue Brief—』、国際子ども図書館の年間活動報告や児童文学・児童サービス関連の記事を掲載する『国際子ども図書館の窓』を始め、当館の国会サービス、行政・司法部門、国民へのサービスの成果を紙媒体で刊行するほか、PDF ファイルでもホームページで公表しています。

(2) ホームページ

「国立国会図書館ホームページ」（1996年開設）及び「国際子ども図書館ホームページ」（2000年開設）では、広報を含めた「インターネット上の当館のサービス窓口」として、1で述べた文化活動を始め、様々な情報を発信しています。

(3) メールマガジン

図書館及び図書館情報学に関する最新ニュースの提供（「カレント・アウェアネス E」（2002年10月から月2回発行））、当館の図書館協力に関する情報の提供（「図書館協力ニュース」（2003年10月から月1回発行））、国際子ども図書館開催の展示会・イベント情報、国内外の子どもと本に関する情報の提供（「国際子ども図書館メールマガジン」（2010年3月から月1回発行））を行っています。

(4) ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）

新たな広報手段として、SNSによる広報を開始しました。

① Twitter

当館の公式アカウント「NDLJP」により、国立国会図書館のサービス、活動に関する情報、自然災害等により当館の提供サービス等に変更が生じた際の緊急情報を提供しています（2012年6月から配信）。また、別のアカウントで当館ウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」で配信中の速報ニュース、レファレンス協同データベース事業、総合目録ネットワーク事業のイベント情報等も提供しています。

② Facebook

2014年9月、「国立国会図書館の展示（東京・関西）」のページを開設し、東京本館、関西館で開催する展示会や電子展示会の情報を提供しています。第一弾として、東京本館

開催の2014年企画展示「あの人の直筆展」(10月18日~11月18日)の見どころ情報を提供しました。

(5) 図書館界の主催イベントへの出展

図書館界の展覧会等のイベントへの出展は、時代を問わず、当館を大いにPRできる貴重な機会です。

例えば、国内外の主要な図書館関係団体・企業等が参加する図書館総合展に参加していますが、第16回図書館総合展(2014年11月5日-11月7日、パシフィコ横浜にて開催)では、当館の展示ブースにおいて、当館のサービスや事業を紹介したほか、「東日本大震災に関する記録の収集・整理・保存について」と題するフォーラムを開催しました。

(6) 官公庁や地元地域への協力・連携

国の官公庁や地元自治体のイベントに参加することを通して館の広報を行っています。例えば、東京本館では、2000年から毎年、文部科学省が主催する「子ども霞が関見学デー」に参加し、関西館では、地元自治体の行事に合わせた「関西館見学デー」を毎年開催しています。また、国際子ども図書館では、博物館・美術館・動物園等が集まる上野公園近隣機関との連携行事を実施しています。

おわりにー魅力ある情報発信のために

文化活動は、展示会やイベントを通じて当館から発信した情報を享受する人々の理解度や満足度の向上を考えながら、柔軟な姿勢で企画を立案し実施することが大切であると思います。例えば、展示会は、関連行事として講演会、シンポジウム等のイベントを抱き合わせて開催したり、原資料を用いた展示会(企画展示、小展示)と電子展示会を組み合わせることで、テーマや資料への理解や関心をより深める効果が期待できると考えます。

また、広報活動は、文化活動を始め、館の多様な活動や役割を、図書館の利用者に限らず、多くの人々に広く理解してもらうためのものでなければなりません。目的にかなった方法や手段を積極的に活用することは必要であると思いますが、提供する情報が拡充されることで類似情報が錯綜し、分かりにくい複雑な広報となっていないか、注意を払う必要があります。常にサービス対象の視点に立って、分かりやすさ、使いやすさに十分配慮する広報活動に努めていくことが大切であると思います。